

YAMAHA

MIXING CONSOLE

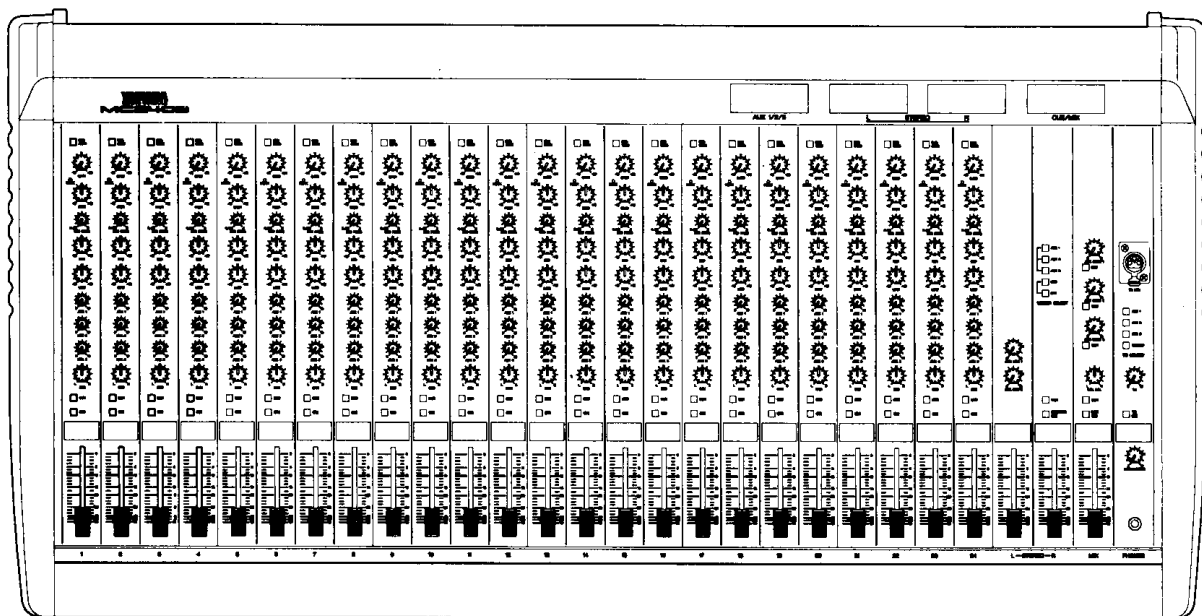
MC803

MC1203

MC1603

MC2403

取扱説明書



このたびは、YAMAHA MC03シリーズミキシングコンソールをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。MC03シリーズミキシングコンソールは、操作性と機能性を調和させたミキサーです。

MCシリーズミキサーの性能をフルに発揮させると共に、いつまでも支障なくお使いいただくため、ご使用前にこの説明書をよくお読みください。

特 長

- MC803は8CH、MC1203は12CH、MC1603は16CH、MC2403は24CHの入力チャンネルを持ち、ステレオの状態にミキシングして出力できます。
- ステレオのLとRを任意の割合でミックスしてモノラルで出力するMIX OUT端子がつけました。
- 全入力チャンネルにXLRタイプコネクタとフォンジャックを装備しており、接続がスムーズに行えます。マイクロフォンからラインレベル機器まで、幅広く対応します。そのうえファントム電源を装備していますから、外部電源を必要とするコンデンサーマイクロフォンも手軽に接続できます。
- エフェクトデバイスの使用を想定して、全入力チャンネルにインサートイン/アウト端子を設けました。チャンネルごとに異なったエフェクターを自由に接続できます。
- 3系統のAUX SEND端子と、2系統のAUX RTN L, R端子を持っています。たとえば、1イン/2アウトのエフェクターを2台接続しても、AUX SEND端子が1系統余ります。モニターシステム等の接続を考慮し余裕を持たせています。
- チャンネルの増設に便利なSUB IN端子を装備しています。もう1台のミキサーを接続して増設できます。
- PEAKインジケータとレベルメーターを装備しており、入出力レベルの監視に便利です。
- CUEスイッチがあり、どんな状態で入力されているか、またどんな状態でミキシングされているかをヘッドフォンおよびメーターでチェックできます。
- トークバックマイクロフォンを接続でき、どの出力にも混入できます。

目 次

ご使用上の注意	2
コントロールパネル	
チャンネルコントロール部	3
マスターコントロール部	5
メーター部	7
リアパネル	7
セットアップ例	9
仕様	
一般仕様	10
入力仕様	11
出力仕様	11
ブロック & レベルダイアグラム	12
寸法図	13

ご使用上の注意

◆ 設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- ・ 直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど。
- ・ 温度の特に低い場所。
- ・ 湿気やホコリの多い場所。
- ・ 振動の多い場所。

◆ 無理な力を加えない

スイッチやツマミ類に無理な力を加えることは避けてください。

◆ 電源について

- ・ 本機は日本国内仕様です。必ず、AC100V(50Hzまたは60Hz)の電源コンセントに接続してください。AC100V以外の電源では絶対にご使用にならないでください。
- ・ POWERスイッチは、送信機器側から順にONにしてください。

◆ 接続について

接続は、各機器の電源スイッチをOFFにしてから行うか、または各ボリュームを絞ってから行ってください。

◆ XLRタイプコネクタについて

本機のXLRタイプコネクタは、DIN規格にもとづき配線されており、1番シールド(アース)、2番ホット、3番コールドの接続形式です。

◆ ケースを開けない

故障や感電の原因となりますので、ケースを開けたり改造しないようにしてください。

◆ 外装のお手入れについて

外装をベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプのスプレーを散布しないでください。外装のお手入れの際は、必ず柔らかい布で乾拭きしてください。

◆ 落雷に対する注意

落雷の恐れがあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。

◆ 保証書の手続きを

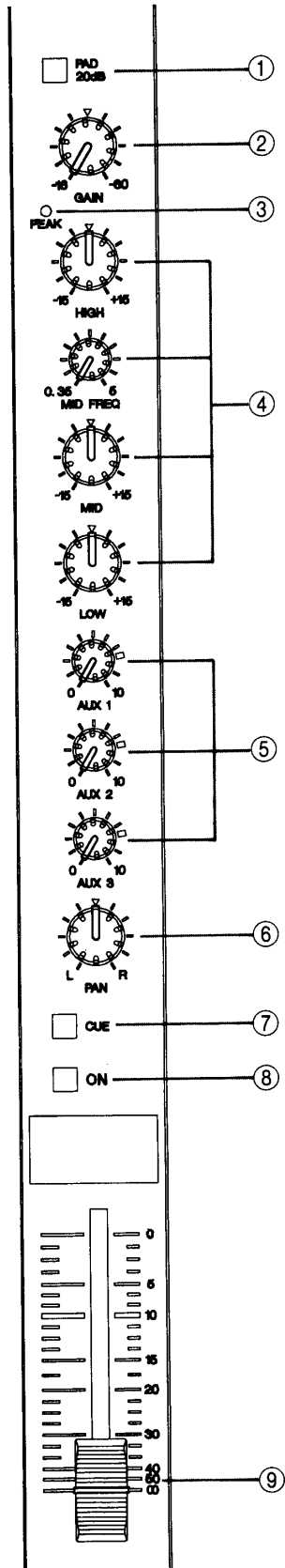
お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをとってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でもサービスが有償となることがあります。

◆ 保管してください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

コントロールパネル

■チャンネルコントロール部



① PAD(インプットアッテネーター)スイッチ

減衰量20 dBのパッドスイッチです。

入力信号のレベルが高すぎて、②のGAINコントロールで減衰しきれない場合には、このスイッチをON “■” にします。

② GAINコントロール

入力信号レベルに応じ、最適なレベルで入力できるように、このつまみで感度を調整します。

③のPEAKインジケータがたまに点灯する程度に設定すると、S/Nとダイナミックレンジのバランスがとれた良好な状態になります。さらに入力レベルを減衰させたい場合は①のPADスイッチをON “■” にします。

INPUT SOURCE	PADスイッチ	GAINコントロール
ローレベルマイクロフォン(ダイナミック型)	OFF	-60 ~ -50
ハイレベルマイクロフォン(コンデンサー型)/電気・電子楽器	OFF	-35
ローレベルライン(一般オーディオ機器)/電気・電子楽器	OFF	-20
ハイレベルライン(プロ用機器)	ON	-16

③ PEAKインジケータ

ポストEQのピークレベルを検出します。

クリッピングの手前3 dBで赤色点灯し、クリッピングレベルに近づいたことを警告します。

④ イコライザー (HIGH, MID, LOWコントロール)

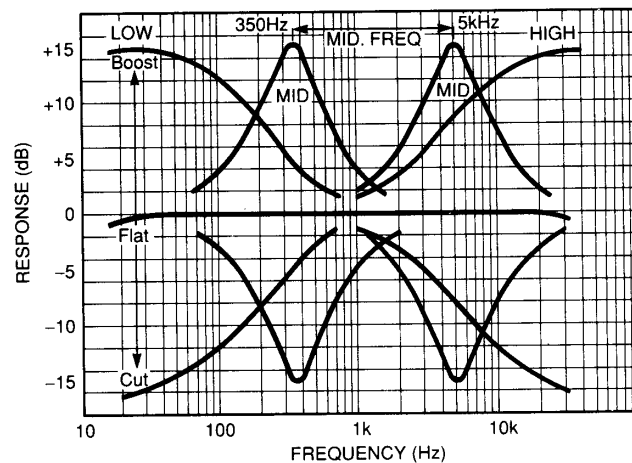
高域、中域、低域の各レベルを下記の基準周波数にて、最大15 dBの範囲でコントロールします。

HIGH: 基準周波数 10kHz

MID: 基準周波数範囲 350Hz~5kHz

LOW: 基準周波数 100Hz

つまみ位置 “▼” でフラットな特性となります。



⑤ AUX 1~3コントロール

AUXバスへ送り出す信号のレベルをコントロールします。

- ・ AUX 1コントロールは、イコライザーの手前に設けられているので、チャンネルイコライザーやチャンネルフェーダーの設定とは無関係です。
- ・ AUX2,3コントロールは、チャンネルフェーダーの後に設けられているので、チャンネルイコライザーやチャンネルフェーダーの設定により、音質やレベルが変わります。
- ・ AUXコントロールは、内部のジャンパー線の切り替えにより、ポストEQ/ポストフェーダーあるいはプリEQ/プリフェーダーに変更することもできます。必要の場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

⑥ PAN(パンポット)コントロール

各チャンネルのチャンネルフェーダー⑨でレベル調整した信号を、ステレオL,Rに振り分けるためのツマミで、各楽器の音像をL-R間のどのあたりに定位させるのかを決めることができます。

たとえば、ツマミを“L”側に回すと、その楽器の音像が左の方へ移動します。

⑦ チャンネルCUEスイッチ

スイッチをON “■” にすることにより、そのチャンネルの入力の状態をヘッドフォンおよびCUE/MIXメーターで確認できます。

入力信号の音質を確認したいときや、あるチャンネルのトラブルに対処したい、という場合に便利です。

スイッチをON “■” にしても、ST OUTやAUX SEND端子の出力には全く影響しません。

- ・ このCUEスイッチは、プリEQ/プリフェーダーにセットされていますが、内部のジャンパー線の切替えによりポストEQ/ポストフェーダーにすることもできます。必要の場合はお買い上げの販売店にご相談ください。

⑧ チャンネルONスイッチ

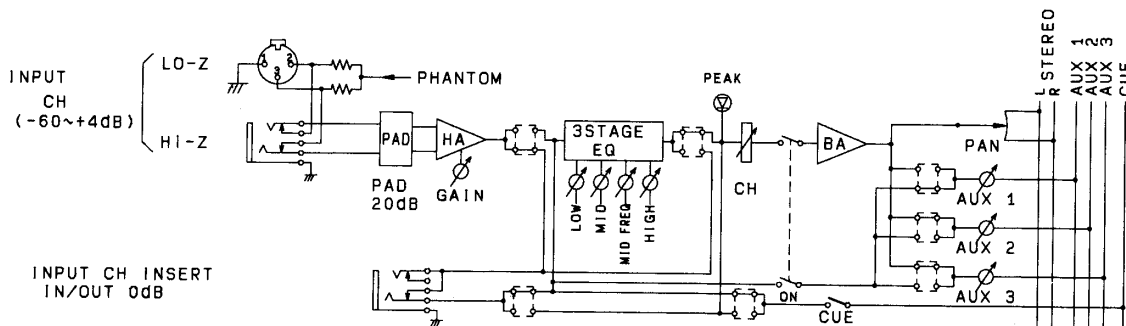
各チャンネルの入力信号をL, Rステレオバス、MIXアウトプット、AUX 1~3バスへ送り出します。

OFF “■” にすると、各バスへの送出信号を完全にミュートします。使用しないチャンネルのスイッチはOFFにしておいてください。

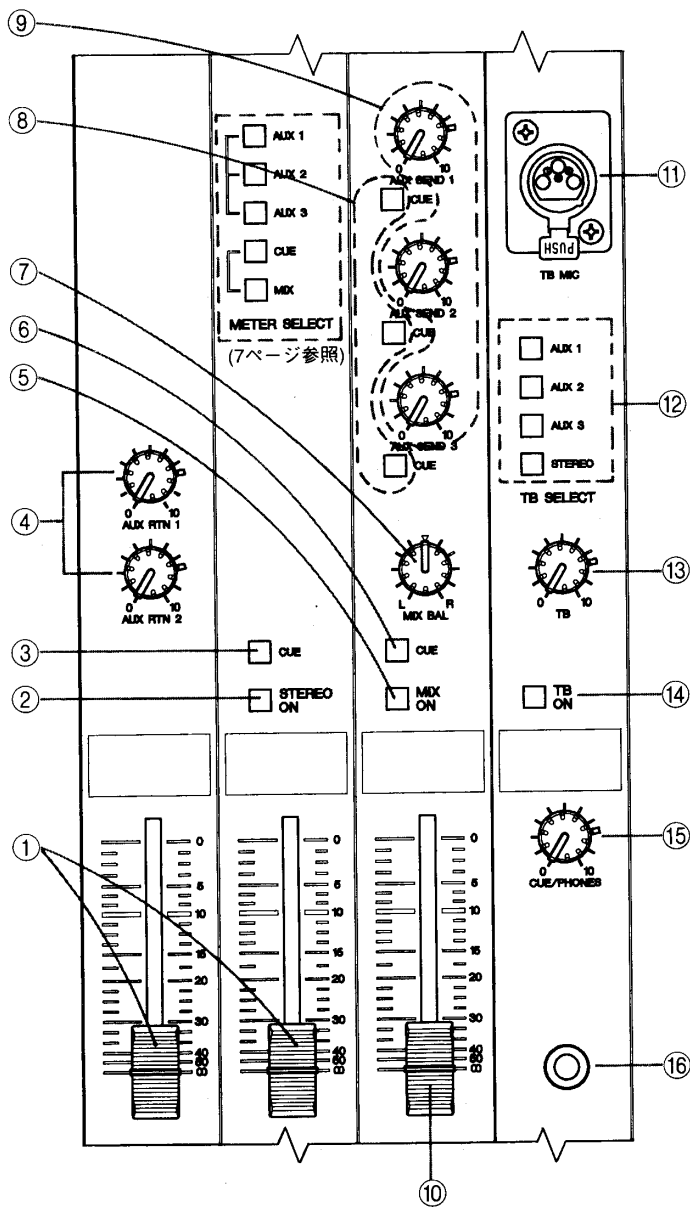
⑨ チャンネルフェーダー

各チャンネルの信号の送出レベルをコントロールします。楽器間の音量バランスを決めてください。

使用しないチャンネルのフェーダーは下げておいてください。



■ マスターコントロール部



① STEREO L, R マスターフェーダー

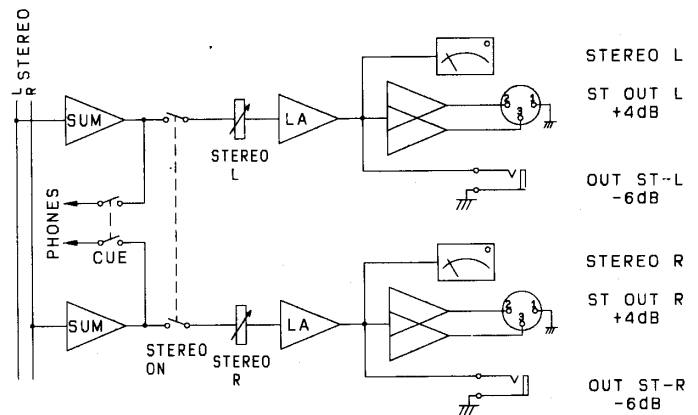
全てのチャンネルの信号を最終的にまとめてレベル調整し、STEREO OUT端子へ送り出します。
STメーターで、L,Rそれぞれの出力レベルを監視できます。

② STEREO ONスイッチ

ST OUT出力をON “” OFF “” するスイッチです。
スイッチがOFF “” になっていればSTメーターにはレベルは表示されません。
MIX OUTへの信号は、このスイッチに関係なく送られます。

③ ステレオ CUEスイッチ

スイッチをON “” にすると、ST OUT端子の出力信号の状態を、ステレオヘッドフォンでモニターできます。
このとき、ST OUT端子の出力には全く影響しません。また、①のSTEREOマスターフェーダーによるレベル設定にも関係なく、いつでも音を確認できます。



④ AUX RTN 1, 2コントロール

AUX RTN 1, 2端子に接続したエフェクター等からの入力レベルを、L,R同時に調整します。

⑤ MIX ONスイッチ

MIX OUT出力をON “” OFF “” します。
MIX OUT出力は、ライブ演奏のシンプルな録音や、サブのパワーアンプの駆動、あるいはスピーカーの位相補正などに使われます。

⑥ Mix CUE スイッチ

スイッチをON “” にすると、MIX OUT端子へ出力する信号の状態をヘッドフォンで確認できます。
⑩のMixフェーダーによるレベル設定に関係なく、いつでも音を確認できます。

⑦ MIX BALコントロール

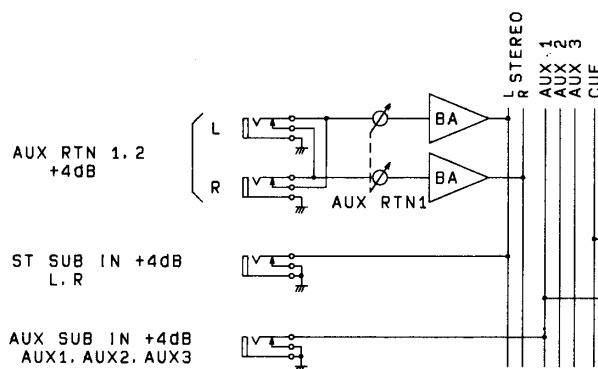
ステレオのLとRを任意の割合でミックスします。

⑧ AUX SEND 1~3 CUEスイッチ

スイッチをON “” にすると、AUX SEND 1~3端子の出力信号を、ヘッドフォンで確認できます。
このとき、AUX SEND端子の出力には全く影響しません。また、⑨のAUX SEND 1~3コントロールによるレベル設定にも関係なく、いつでも音を確認できます。

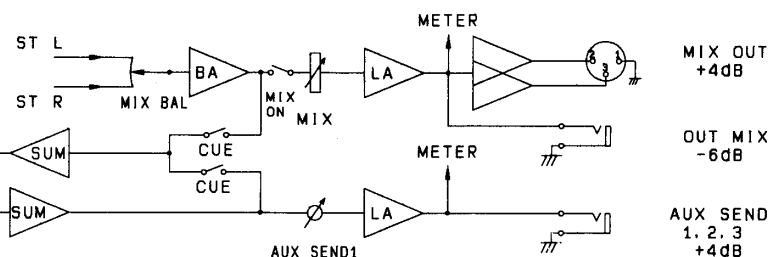
⑨AUX SEND 1~3 コントロール

AUX信号を全体的にレベル調整して、AUX SEND 1~3 端子に送り出します。



⑩ Mix フェーダー

MIX OUT端子への出力レベルを調整します。



⑪ TB MIC端子

トークバック用のマイクロフォンを接続します。
規定入力レベルおよび適合インピーダンスは、 $-50\text{dB}/50\Omega \sim 600\Omega$ です。
一般に、演奏者やスタッフとのコミュニケーション用として使用します。

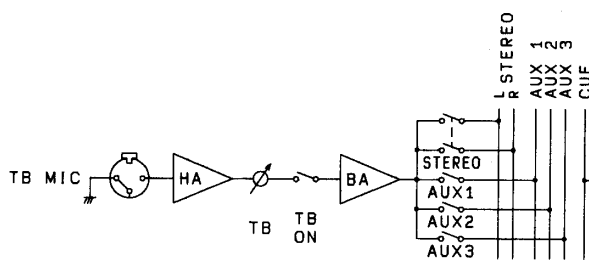
⑫ TB SELECTスイッチ

トークバック信号(トークバック用のマイクロフォンで交す会話)を、どの出力にミックスするか選択します。

- **AUX 1/2/3** : AUX SEND1, 2, 3端子へ出力されるAUX信号にミックスします。
- **STEREO** : ST OUT端子に出力されるメイン信号にミックスします。

⑬TBコントロール

トークバック信号の入力レベルをコントロールします。



⑭ TB ONスイッチ

トークバック信号をL・Rステレオバス、AUX 1~3バスへ送り出します。

⑮ CUE/PHONESコントロール

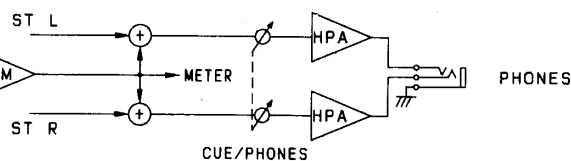
ヘッドフォン端子⑯に接続したヘッドフォンのモニター(CUE信号)の音量を調節します。

⑯ PHONES端子

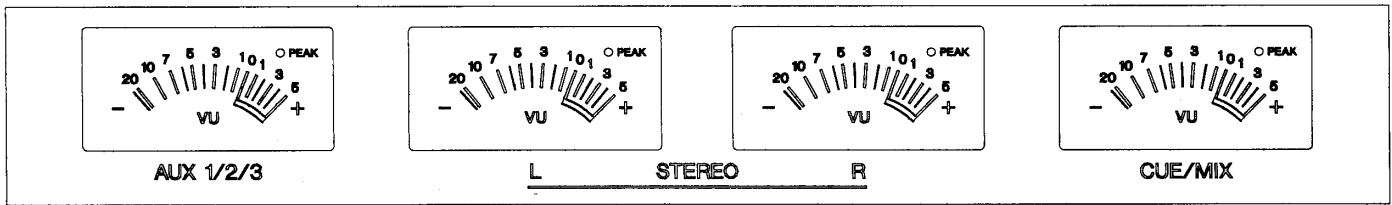
ステレオヘッドフォンを接続します。
CUE信号がモニターでき、複数のCUE信号を同時にモニターすることも可能です。

—モニター可能なCUE信号—

- 各入力チャンネルに入力された信号
- 各AUX SEND端子に出力されるAUX信号
- MIX OUT信号
- ST OUT端子に出力されるメイン信号



■メーター部



・AUX 1/2/3メーター

AUX SEND端子に出力されるAUX信号のレベルを表示するPEAKインジケーター内蔵のVUメーターです。

PEAKインジケーターは、+14dB(クリッピングの6dB手前)で点灯します。

—参考—

- ・METERファンクションスイッチを“AUX 1”～“AUX 3”のいずれかにした時のAUX SENDのレベル

VUメーター指示	-20VU	-10VU	-5VU	0VU	+3VU
AUX SEND端子の出力レベル	-16dB (123mV)	-6dB (388mV)	-1dB (691mV)	+4dB (1.23V)	+7dB (1.74V)

・STEREO L・Rメーター

ST OUT端子に出力するメイン信号のレベルを表示するPEAKインジケーター内蔵のVUメーターです。

メーター表示は、上表と同じです。

PEAKインジケーターは、+14dB(クリッピングの10dB手前)で点灯します。

・CUE/MIXメーター

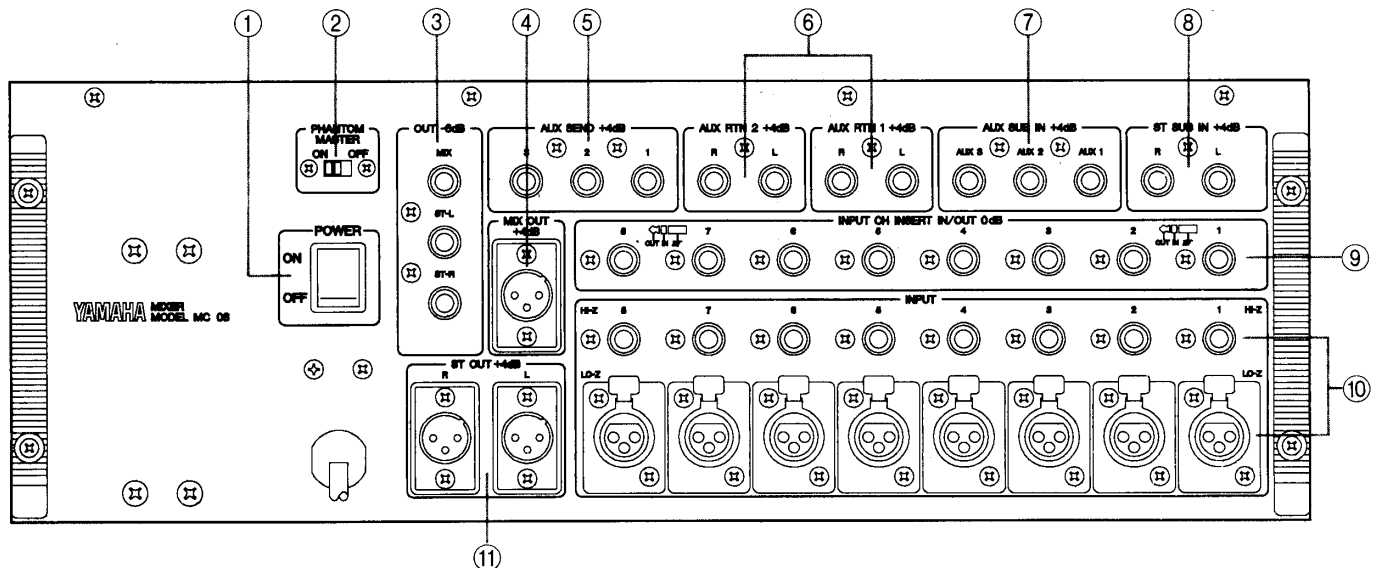
METER SELECTスイッチで選ばれたCUE信号またはMIX OUT信号のレベルを表示します。

・METER SELECTスイッチ

AUX 1/2/3メーターおよびCUE/MIXメーターがモニターする信号を選びます。

- ・AUX 1/2/3: AUX SEND 1/2/3端子へ出力されるAUX 1/2/3信号の出力レベルを表示します。
- ・CUE: インプットチャンネルの入力信号、MIX OUTの出力信号およびAUX SENDの出力信号のうちで、CUEスイッチの押されているものの合計レベルを表示します。
- ・MIX: MIX OUTの出力レベルを表示します。

リアパネル



① POWERスイッチ

ONにすると電源が入り、VUメーターの照明が点灯します。

② PHANTOM MASTERスイッチ

ファントム電源を全チャンネルまとめてON/OFFにします。スイッチをONにすると、CH INPUTのLO-Z端子の2,3番ピンにDC+48Vが供給されます。

ファントム電源を必要としないときは、必ずOFF側にしてください。ファントム電源は供給されません。

※ スイッチONの状態ではバランス型ダイナミックマイクフォンやラインレベル機器を接続してもさしつかえありませんが、アンバランス機器やトランスのセンターがアースされている機器を接続すると、ハムや故障の原因となります。

③ OUT・-6dB

ST-L OUT, ST-R OUT, MIX OUTのアンバランス型出力端子で、規定出力レベルは-6dBです。

モノラルで出力する場合はMIX OUT端子を使います。

④ MIX OUT・+4dB

バランス型モノラルミックス出力端子です。

規定出力レベルおよび適合インピーダンスは+4dB/600Ωです。

⑤ AUX SEND・+4dB

アンバランス型出力端子で、規定出力レベルおよび適合インピーダンスは、+4dB/600Ωです。

リバーブやディレイなどのエフェクターへAUX信号を送り出したり、モニター信号をモニターシステムへ送り出すことができます。

⑥ AUX RTN 1・2・+4dB

アンバランス型入力端子で、規定入力レベルおよび適合インピーダンスは、+4dB/10kΩです。

リバーブやディレイなどのエフェクターからリターン信号を受けたり、補助入力端子として使用できます。

⑦ AUX SUB IN・+4dB

アンバランス型入力端子で、規定入力レベルおよび適合インピーダンスは、+4dB/600Ωです。

チャンネル増設用の端子で、サブミキサーからのAUX出力(AUX SEND)信号を受けることができます。

⑧ ST SUB IN・+4dB

アンバランス型入力端子で、規定入力レベルおよび適合インピーダンスは、+4dB/600Ωです。

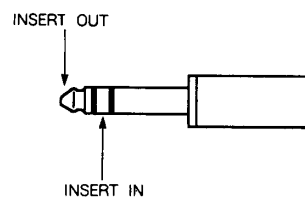
チャンネル増設用の端子で、サブミキサーからのメイン出力(ST OUT)信号を受けることができます。

⑨ INPUT CH INSERT IN/OUT・0dB

入力チャンネル部のヘッドアンプとイコライザーの間に設けられたバランス型入・出力端子です。

規定入力レベルおよび適合インピーダンスは0dB/600Ω、規定出力レベルおよび適合インピーダンスは0dB/10kΩです。グラフィックイコライザーやコンプレッサー、ノイズフィルターなどを挿入することが可能です。

・ 内部のジャンパー線の切替えにより、ポストEQにすることもできます。必要な場合はお買い上げ販売店にご相談ください。



⑩ CH INPUT

各チャンネルの入力端子で、LO-Z(ローインピーダンス)、HI-Z(ハイインピーダンス)共にバランス型です。定格入力レベルは-60dB~0dBで、50Ω~600Ωのマイクフォンまたは600Ωのラインレベル機器に対応します。

なお、本機内蔵のファントム電源により、外部電源仕様のコンデンサーマイクフォンを使用できます。

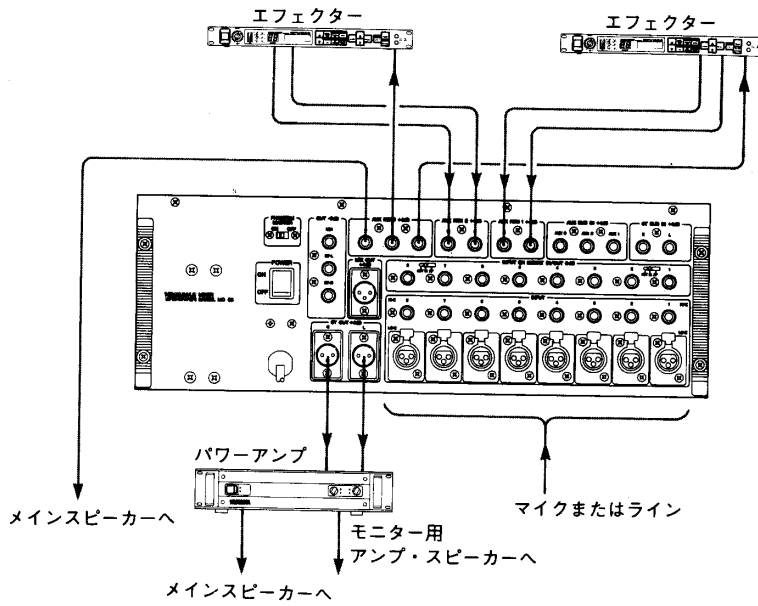
⑪ ST OUT・+4dB

バランス型出力端子で、規定出力レベルおよび適合インピーダンスは、+4dB/600Ωです。

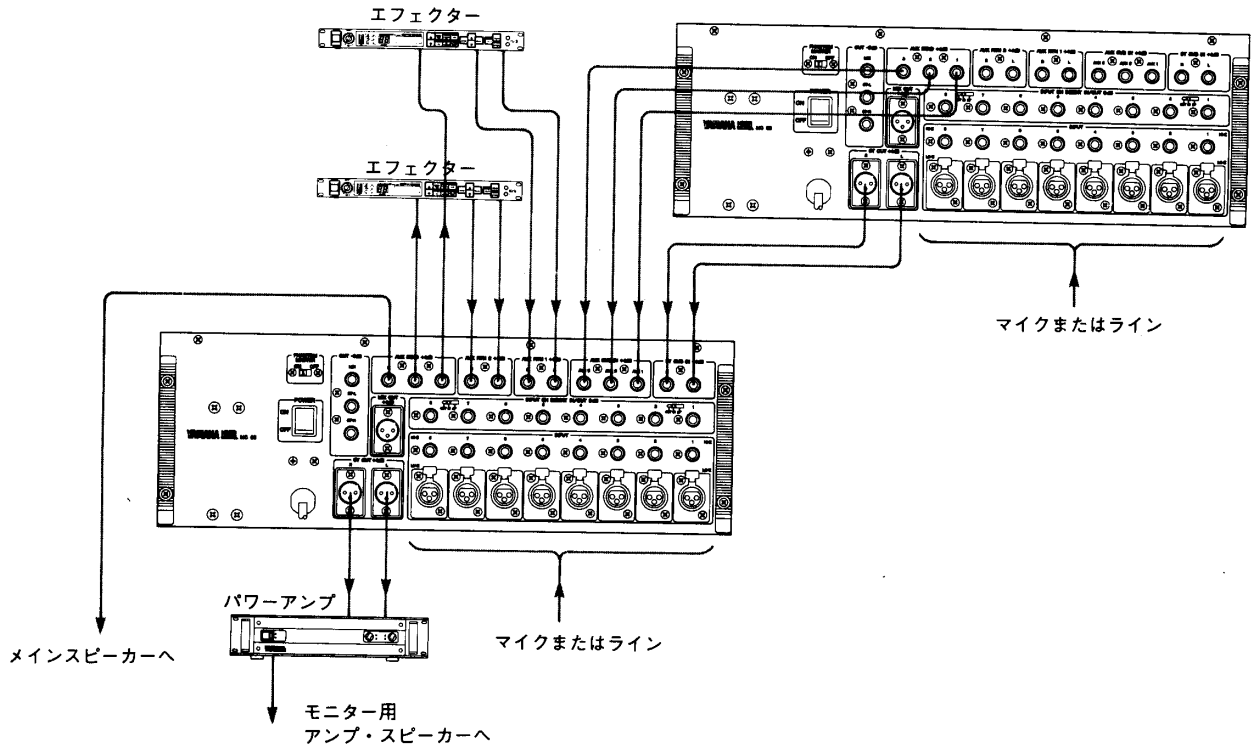
メインスピーカーを駆動するパワーアンプやレコーディング用のステレオテープデッキを接続します。

セットアップ例

● 基本接続



● 並列接続



仕様

■一般仕様

周波数特性 20Hz~20kHz 0_{-3}^{+1} dB(@600Ω, +4dB)

全高調波歪率 0.1%以下(20Hz~20kHz, @600Ω, +4dB)

ハム&ノイズ^{*1}

ST OUT, MIX OUT, -128dB 入力換算ノイズ

AUX SEND

ST OUT, MIX OUT -96dB 残留ノイズ

ST OUT -88dB マスターフェーダー: nominal

全チャンネルONスイッチ: 切

-64dB マスターフェーダー: nominal

1チャンネルフェーダー: nominal

AUX SEND -78dB AUX SENDコントロール: nominal

全チャンネルONスイッチ: 切

-64dB AUX SENDコントロール: nominal

1チャンネルAUXコントロール: nominal

最大電圧利得

84dB CH INPUT → ST OUT, MIX OUT

76dB CH INPUT → AUX SEND 1

86dB CH INPUT → AUX SEND 2, 3

16dB AUX RTN → ST OUT

10dB SUB IN → ST OUT

6dB SUB IN → AUX SEND

66dB TALKBACK → ST OUT

クロストーク(@1kHz)

-70dB 入力CH間

-70dB 入力CH-出力CH間

イコライザー特性

最大可変幅 ±15dB

HIGH-EQ 10kHz⁻² シェルビングタイプ

MID-EQ 350Hz~5kHz ピーキングタイプ

LOW-EQ 100Hz⁻² シェルビングタイプ

VUメーター AUX 1/2/3, STEREO L・R, CUE/MIX

内蔵PEAKインジケーターは+14dBで赤色点灯

PEAKインジケーター 各チャンネルフェーダーの前段において、

クリッピングレベルの3dB手前で赤色点灯

ファントム電源 +48V, DC

電源 AC100V 50/60Hz

消費電力

MC803 30 W

MC1203 35 W

MC1603 40 W

MC2403 50 W

最大外径寸法(W×H×D)

MC803 506×167×543mm

MC1203 642×167×543mm

MC1603 778×167×543mm

MC2403 1050×167×543mm

重量

MC803 12.5kg

MC1203 15.5kg

MC1603 18.5kg

MC2403 24.5kg

*1 @20Hz ~ 20 kHz, $R_s = 150\Omega$

12.7kHz、-6dB/oct.のLPFにて補正

*2 ターンオーバー/ロールオフ周波数:

最大可変幅に対し3dB下がった(±12dB)ポイント

● 0dB=0.775Vrms

● nominal フェーダー: -10dB

レベルコントロール: -6dB

■入力仕様

入力端子	入力インピーダンス		ソースインピーダンス	感度 (最大ゲイン)	入力レベル		使用コネクター	
	PAD	GAIN			規定レベル	最大ノンクリップレベル		
CH INPUT	OFF(0dB)	-60dB	LO-Z 4k Ω	50~600 Ω マイク & 600 Ω ライン	-80dB (0.08mV)	-60dB (0.8mV)	-40dB (7.75mV)	LO-Z: XLR-3-31タイプ バランス型 HI-Z: フォンジャック (TRS)*1 バランス型
		-20dB	HI-Z 10k Ω	-40dB (7.75mV)	-20dB (77.5mV)	+4dB (1.23V)		
	ON(20dB)			-20dB (77.5mV)	0dB (775mV)	+24dB (12.3V)		
INPUT CH INSERT IN			10k Ω	600 Ω ライン	-20dB (77.5mV)	0dB (775mV)	+20dB (7.75V)	フォンジャック(TRS)*2
ST SUB IN, AUX SUB IN			10k Ω	600 Ω ライン	-2dB (617mV)	+4dB (1.23V)	+20dB (7.75V)	フォンジャック アンバランス型
AUX RTN			10k Ω	600 Ω ライン	-12dB (195mV)	+4dB (1.23V)	—	フォンジャック アンバランス型
TALKBACK IN			4k Ω	50~600 Ω マイク	-66dB (0.39mV)	-50dB (2.45mV)	-24dB (48.9mV)	XLR-3-31タイプ アンバランス型

*1) HI-Z INPUT Jacks (T = HOT, R = COLD, S = GND)

*2) Insert Phone Jacks (T = OUT, R = IN, S = GND)

● 0dB = 0.775Vr.m.s.

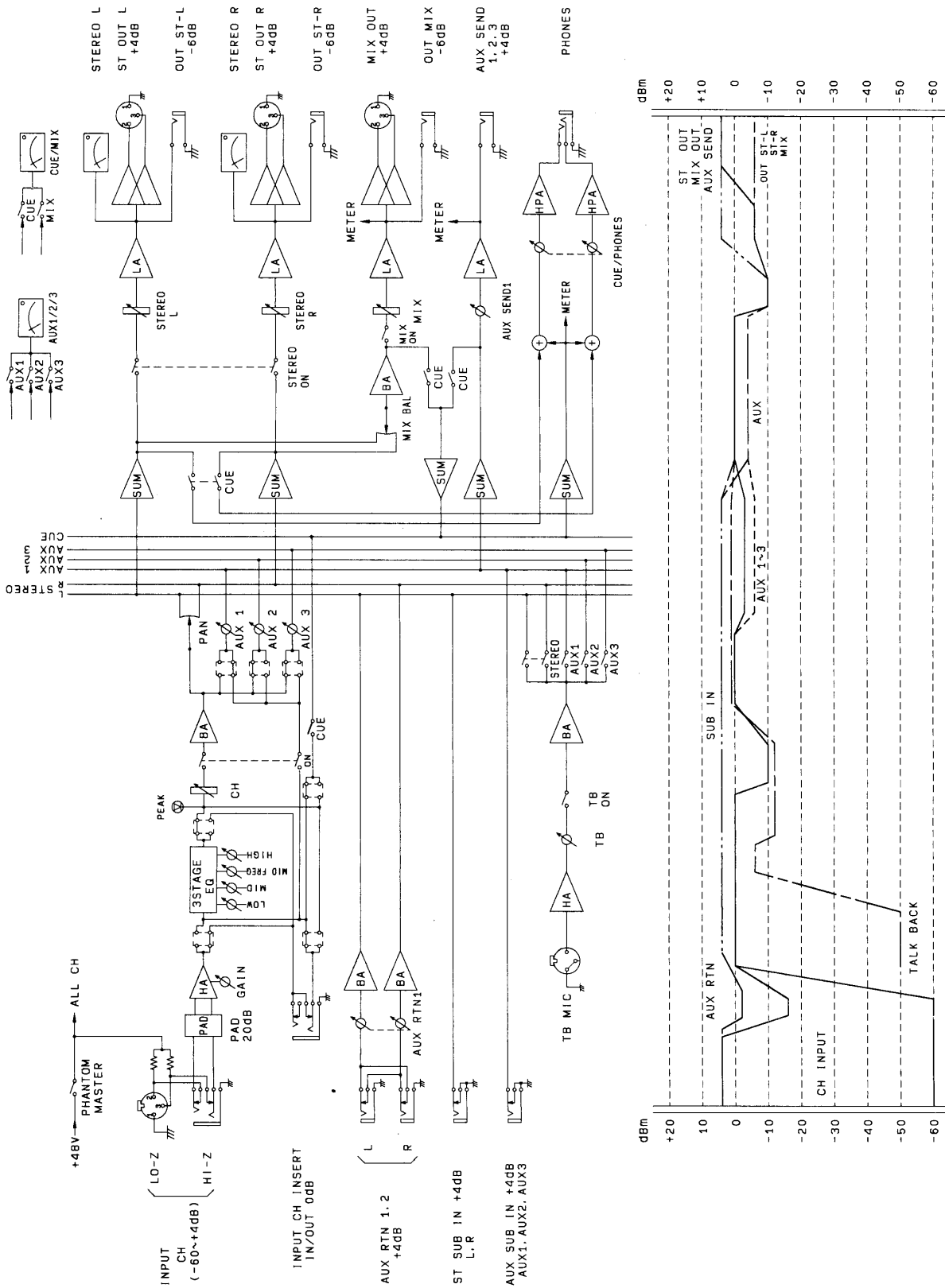
■出力仕様

出力端子	出力インピーダンス	負荷インピーダンス	出力レベル		使用コネクター	
			規定レベル	最大ノンクリップレベル		
ST OUT	150 Ω	600 Ω ライン	+4dB(1.23V)	+24dB(12.3V)	XLR-3-32タイプ バランス型	
	600 Ω	10k Ω ライン	-6dB(388mV)	+14dB(3.87V)	フォンジャック アンバランス型	
MIX OUT	150 Ω	600 Ω ライン	+4dB(1.23V)	+24dB(12.3V)	XLR-3-32タイプ バランス型	
	600 Ω	10k Ω ライン	-6dB(388mV)	+14dB(3.87V)	フォンジャック アンバランス型	
AUX SEND 1~3		100 Ω	10k Ω ライン	+4dB(1.23V)	+20dB(7.75V)	フォンジャック アンバランス型
INPUT CH INSERT OUT		600 Ω	10k Ω ライン	0dB(775mV)	+20dB(7.75V)	フォンジャック(TRS)*1
PHONES	100 Ω	8 Ω ヘッドフォン	1mW	20mW	ステレオフォンジャック	
		40 Ω ヘッドフォン	3mW	130mW		

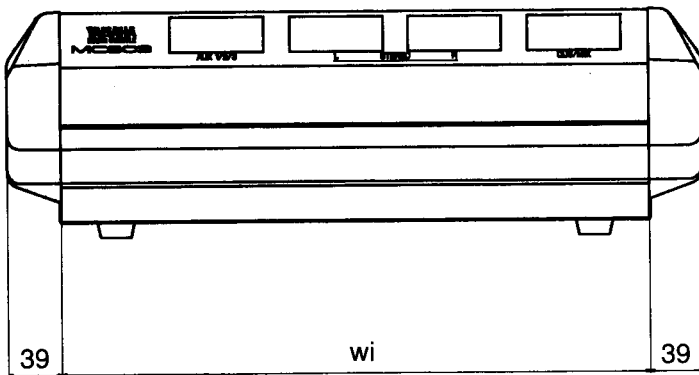
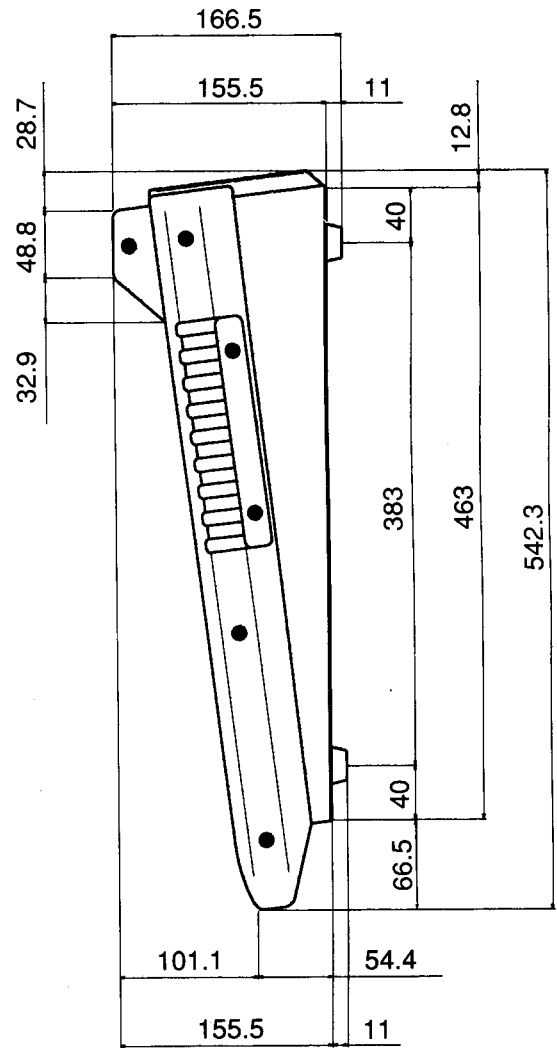
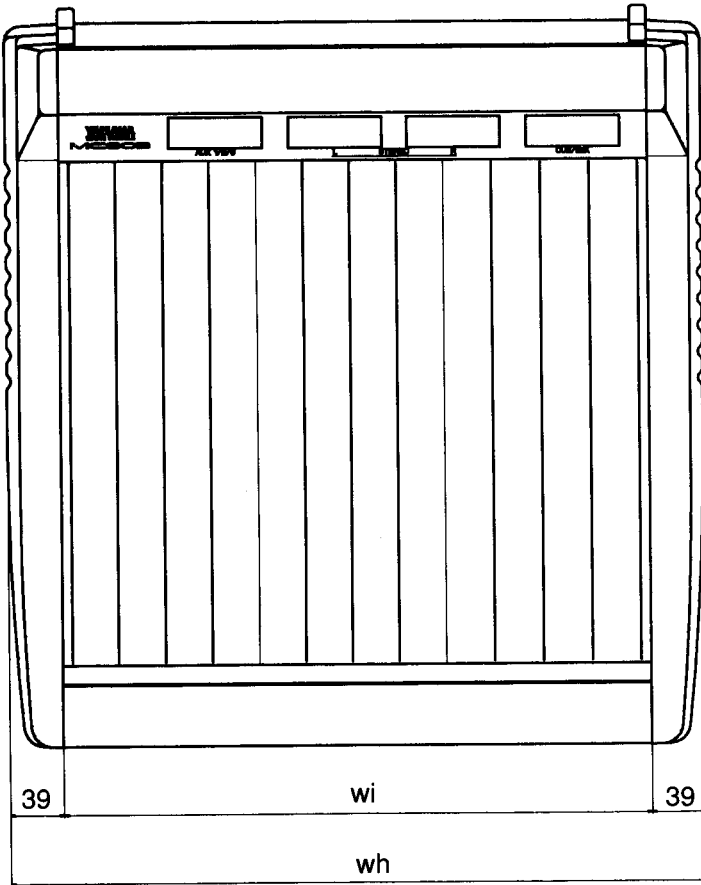
*1) Insert Phone Jacks (T = OUT, R = IN, S = GND)

● 0dB = 0.775Vr.m.s.

■ ブロック & レベルダイアグラム



■ 寸法図



MODEL	wi	wh
MC803	428	506
MC1203	564	642
MC1603	700	778
MC2403	972	1050

単位 : mm

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することもあります。

サービスについて

■ お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品にかんするご質問・ご相談・あるいはアフターサービスについてのお問い合わせは下記のお客様ご相談窓口へおよせください。

■ 保証書

本機には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめのうえ、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、本機の保証期間はお買上げ日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要なときは、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

■ 調整・故障の修理

「故障かな?」と思われる症状のときは、この説明書をもつ一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理にさいしては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいい、PA製品ではその最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

● お客様ご相談窓口：PA製品に対するお問合せ窓口

<音響システム事業部 営業部>

東京営業所	☎ 03-3255-1825	〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル 4F
大阪営業所	☎ 06-647-8359	〒556	大阪市浪速区難波中1-13-17 なんば辻本ニッセイビル
名古屋営業所	☎ 052-232-5744	〒460	名古屋市中区錦1-18-28
九州営業所	☎ 092-412-5556	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4
本社 国内営業課	☎ 053-460-2455	〒430	浜松市中沢町10-1

<国内営業統括本部>

北海道支店 LM営業課	☎ 011-512-6113	〒064	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
仙台支店 LM営業課	☎ 022-222-6146	〒980	仙台市青葉区大町2-2-10
広島支店 LM営業課	☎ 082-244-3749	〒730	広島市中区紙屋町1-1-18 ヤマハビル

● ヤマハ電気音響製品サービス拠点：修理受付および修理品お預り窓口

北海道サービスセンター	☎ 011-513-5036	〒064	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
仙台サービスセンター	☎ 022-236-0249	〒983	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター 3F
新潟サービスセンター	☎ 025-243-4321	〒950	新潟市万代1-4-8 シルバー・ボウルビル 2F
東京サービスセンター	☎ 03-3255-2241	〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル 4F
首都圏サービスセンター	☎ 044-434-3100	〒211	川崎市中原区木月1184
浜松サービスセンター	☎ 053-465-6711	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
名古屋サービスセンター	☎ 052-652-2230	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター 3F
大阪サービスセンター	☎ 06-877-5262	〒565	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
四国サービスセンター	☎ 0878-22-3045	〒760	高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内
広島サービスセンター	☎ 082-874-3787	〒731-01	広島市安佐南区西原2-27-39
九州サービスセンター	☎ 092-472-2134	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4
本社/カスタマーサービス部	☎ 053-465-1158	〒435	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内

※ 1992年11月21日現在

※ 所在地・電話番号などは変更されることがあります。

ヤマハ株式会社

音響システム事業部 営業部 ☎ 053-460-2455
〒430 浜松市中沢町10-1